

平成 30 年 6 月 12 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25380200

研究課題名(和文) 北欧諸国の安全保障・防衛政策の変容とPKO・危機管理活動での北欧協力

研究課題名(英文) The Change of Nordic Countries' Security and Defense Policy and Nordic Cooperation on Peacekeeping Operations and Crisis Management

研究代表者

五月女 律子 (SAOTOME, Ritsuko)

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：50326526

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の研究結果として、北欧各国の安全保障防衛政策と国際平和活動への参加の特徴が明確になった。冷戦後、デンマークはNATO(北大西洋条約機構)との協力に非常に積極的であるが、フィンランドとスウェーデンはEU(欧州連合)や北欧諸国間の協力に積極的である。ノルウェーは非加盟のEUの活動にも参加している。また、北欧諸国間で国際平和活動での協力体制構築の努力が継続されていると同時に、安全保障防衛政策での協力も進められている。

研究成果の概要(英文)：This research examined the change of Nordic countries' security and defense policy and its influence on participation in international peace operations. After the end of the Cold War, Denmark has actively cooperated with NATO, and Finland and Sweden have placed more importance on cooperation with the EU and other Nordic countries. Although Norway is a non-EU country, it participates some EU-led crisis management operations. Nordic countries sustain efforts to establish the structure of cooperation in international peace operations. They also promote cooperation in security and defense policy.

研究分野：国際関係論

キーワード：国際関係論 北欧諸国 安全保障防衛政策 北欧協力 国連平和維持活動(PKO) 国際的危機管理活動  
欧州連合(EU) 北大西洋条約機構(NATO)

### 1. 研究開始当初の背景

1950年代から本格的に国際連合(国連)による平和維持活動(PKO)が始まり、北欧4カ国(デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン)は活動初期から積極的に要員を派遣してきた。冷戦期に米ソ間の対立によって国連安全保障理事会が国際紛争の解決においての役割を果たしきれない中で、国連によるPKOは一定の成果を上げてきたといえる。その中で、北欧諸国間は「北欧国連待機軍」と呼ばれるPKOにおける活動での協力体制を1964年に構築し、北欧諸国のPKOでの活動方法は一つのモデルとされるようになった。

1990年代半ば以降は、冷戦の終焉により、4カ国の安全保障防衛政策がそれぞれに変容し、安全保障・軍事面でのNATO(北大西洋条約機構)、EU(欧州連合)、国連、アメリカとの関係も変化した。それに伴って、北欧諸国間で構築された国連PKOでの協力体制も再構築され、他国や国連以外の国際機構との協力も進展した。

しかし、北欧諸国の国連PKOや国際的危機管理活動に関する既存研究は多いとはいえない。冷戦期および冷戦後の国連PKOおよび国際的危機管理活動において重要な役割を果たしてきた北欧諸国を分析することは、国連PKO・国際的危機管理活動自体の変化を知る上でも必要である。

また、本研究はヨーロッパにおける国連PKO・国際的危機管理活動での協力体制の構築も分析の視野に入れているという面で、ヨーロッパにおける国際協調の研究としても意義があると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究は、冷戦期における北欧諸国間の国連PKOでの協力を検討した後、冷戦後における北欧諸国の安全保障防衛政策の変容が、国連PKOおよび国際的危機管理活動での北欧協力にどのような影響を及ぼしたのかを分析することを目指す。特に北欧5カ国の中で、1960年代から国連PKOにおける任務に関して協力体制を構築してきたデンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンの4カ国の関係を考察する。

冷戦後の4カ国の安全保障防衛政策の基本原則の変容と、それによるNATO、EU、国連、アメリカと各国の関係の変化に注目し、4カ国によって築かれてきた国連PKO・国際的危機管理活動での協力体制が、従来の調整・協力によって培われてきた共通点は維持しつつ、1990年代以降は他国との協力の進展によって再構築されたことを示す。

### 3. 研究の方法

洋書・洋雑誌を中心に、北欧各国の安全保障防衛政策、国際平和活動(国連PKO、国際的危機管理活動、平和支援など)への参加、北欧諸国間の協力に関する文献・資料の収集

を国内および北欧各国で行った。

毎年北欧5カ国のいずれかに渡航し、現地で研究者へのインタビューや資料収集を実施した。各国の大学図書館等で文献を閲覧・複写し、軍事博物館等で国連PKO、EUの国際的危機管理活動、NATOの平和支援活動への参加における実態に関する展示および説明を閲覧した。

収集したこれらの文献・資料およびインタビューに基づき、冷戦期における北欧各国の安全保障防衛政策を考察し、国連PKOへの参加状況および北欧諸国間での協力体制の構築を分析した。

また、冷戦終結後の北欧各国における安全保障防衛政策の変容を検討し、その変容とNATOおよびEUによる平和支援活動・国際的危機管理活動の開始との関係も考察した。北欧各国に見られる国際平和活動への参加の特徴・相違と、北欧諸国間の協力について分析を行った。

### 4. 研究成果

研究成果の発表として、北欧4カ国の安全保障防衛政策と国際平和活動の関係を考察した論文および、北欧諸国間の国際平和活動における協力を分析した論文を計7本執筆・刊行した。アイスランドの安全保障防衛政策と国際平和活動に関する論文は査読を終了し、2018年11月発行予定の『神戸大論叢』(査読有)に掲載の見込みである。

2013年度は、デンマークのコペンハーゲン大学およびロスキレ大学、フィンランドのAleksanteri Instituteを訪問し、安全保障防衛政策と国際平和活動に精通している両国の研究者に、各国の安全保障防衛政策の特徴、EUおよびNATOとの関係、北欧諸国間の安全保障防衛分野での協力に関してインタビューを行った。収集した資料とこれらの調査結果の分析を行い、次年度に発表した研究論文の準備を進めた。

調査研究の成果として、デンマークは冷戦後に安全保障防衛政策の中核を、自国防衛から軍事的手段の使用も含めた国際平和活動に転換し、NATOとの協力関係をより深めたことが明らかになった。デンマークはEUの共同防衛に対して適用除外の立場であり、軍隊の参加を伴うEUの国際的危機管理活動には参加していないが、当該分野での他の北欧諸国との協力はEUの枠外で継続している。

フィンランドは、ロシアと国境を接していることから国防に重点をおいているが、国際平和活動に積極的に参加し、EUおよびNATOとの関係ではスウェーデンとの協力を深めている。

デンマークおよびフィンランドの安全保障防衛政策において、北欧諸国間の協力の重要度に相違はあるものの、国際平和活動において重視する価値、文化、アイデンティティに共通点が多いことから、北欧諸国間の協力関係を継続していることが明らかになった。

2014年度はノルウェーとスウェーデンで資料収集を行った。ノルウェーはEU加盟国でないものの、他の北欧諸国と協力しながらEUの国際的危機管理活動に参加し、当該分野で他の北欧諸国との協力を深める制度設計に、イニシアティブを発揮する姿勢を示していることが明らかになった。スウェーデンは冷戦後も国際平和活動に積極的に参加し、EUおよびNATOとの関係ではノルウェーやフィンランドとの協力を深めている。

ノルウェーとスウェーデンは安全保障防衛政策において、北欧諸国間の協力の推進に積極的な姿勢であり、互いに非EU加盟国、非NATO加盟国という違いを乗り越えて、北欧諸国間の協力関係を継続していく意志を持っていることがわかった。

また、前年度の調査結果を踏まえてデンマークとフィンランドの安全保障防衛政策と国際平和活動に関する論文を刊行した。

2015年度はノルウェー、スウェーデン、デンマークで資料収集を行い、研究成果として、ノルウェーは国際平和活動に積極的に参加し、NATOとの関係を重視しながら、当該分野での他の北欧諸国との協力の深化に積極的であることが明らかになった。

スウェーデンの安全保障防衛政策は冷戦後に国際化の度合いを強め、軍需関連企業の多国籍化も進んだが、現時点でなおも軍事的非同盟を政策の中核としつつ、北欧諸国間の協力強化を模索している。

スウェーデン、ノルウェー、フィンランドは北欧諸国間での安全保障防衛政策での協力体制構築に前向きな姿勢を示すことが多いが、デンマークは3カ国に比較するとNATOを重視する傾向が強く、北欧諸国間での協力の否定的ではないものの、積極性に欠ける傾向が見られる。

過年度の調査結果を踏まえて、国際的危機管理活動を中心に、EUの共通外交・安全保障政策(CFSP)の発展と北欧協力の関係を分析した論文と、安全保障・軍事の国際化から見たスウェーデンの安全保障防衛政策を考察した論文を執筆・刊行した。

2016年度は、フィンランドとアイスランドにおいて資料収集を行い、研究成果として、フィンランドは軍事攻撃以外の国際平和活動に積極的に参加し、軍事分野において他の北欧諸国との協力の深化・強化を志向していることが明らかになった。

アイスランドは自国軍を持たないため軍事分野での国際協力に参加できないが、文民活動で国際平和活動への貢献を目指しているといえる。

研究成果の発表としては、前年度の調査結果に基づいて、ノルウェーの安全保障防衛政策と国際平和活動の関係を分析した論文を1本執筆・刊行した。ノルウェーは国際平和を目指す理想主義的な対外政策を選好する一方で、NATOを中核とした自国防衛を重視する安全保障防衛政策を冷戦時から継続しつ

つ、2000年代に国際平和活動が安全保障防衛政策に取り込まれ、NATOやEU主導の国際平和活動に積極的に参加することで両組織への貢献を目指し、北欧諸国との協力も推進する方針へと変容したことを明らかにした。

2017年度は、アイスランドを除く北欧4カ国において資料収集を行った。研究成果の発表として、前年度および当該年度の調査結果の一部に基づいて、スウェーデンの国連PKOに関する論文および、国際平和活動における北欧協力を分析した論文を計2本執筆した。

スウェーデンの国連PKOへの参加の歴史および募集や訓練の状況を考察し、参加を志願する人々の動機などについて探った。北欧諸国間の国際平和活動における協力については、1960年代からの訓練・教育での協力体制を基礎として、冷戦後は現地での活動でも協力が進められ、訓練・教育における協力も国連PKOのみでなく、NATO、EU、OSCE(欧州安全保障協力機構)の活動に対象が広がったことを明らかにした。

また、アイスランドの安全保障防衛政策と国際平和活動に関する論文を執筆し、アイスランドとNATO(特にアメリカ)との関係の特殊性を考察し、冷戦後はNATO以外の国際機構との協力を積極的に取り組むようになったことを分析した。

研究期間全体の成果として、北欧各国において安全保障防衛政策が冷戦後に変容し、国連PKO、NATOまたはEU主導の国際平和活動への参加に対する積極性や形態において、各国に明確な相違が見られることが明らかになった。しかし、冷戦後に北欧各国の安全保障防衛政策が変化する中で、北欧諸国間の国際平和活動における協力は、冷戦期の成果・実績を踏まえつつ、協力体制の再編および構築を行う形で継続されている。同時に、安全保障防衛分野での協力も進められるようになっている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

五月女 律子「国際平和活動における北欧協力」『神戸大論叢』第68巻、第2号、2018年、23 - 44頁。[査読有]

五月女 律子「スウェーデンの国連平和維持活動」『神戸大論叢』第67巻、第2号、2017年、159 - 178頁。[査読有]  
<http://id.nii.ac.jp/1085/00002143/>

五月女 律子「ノルウェーの安全保障防衛政策と国際平和活動」『神戸大論叢』第66巻、第3号、2016年、83 - 106頁。[査読有]

<http://id.nii.ac.jp/1085/00001925/>

五月女 律子「スウェーデンの安全保障防衛政策 安全保障・軍事の国際化の視点から」『北九州市立大学国際論集』第14号、2016年、1 - 17頁。  
<http://id.nii.ac.jp/1077/00000460/>

五月女 律子「EUの共通外交・安全保障政策の発展と北欧協力 国際的危機管理活動を中心に」『北九州市立大学法政論集』第43巻、第1・2合併号、2015年、29 - 47頁。

五月女 律子「デンマークの国際平和活動 国連・NATO・EU」『EUIJ-Kyushu Review』Issues 3 and 4, 2014、2015年、1 - 28頁。[査読有]  
<http://eu.kyushu-u.ac.jp/E-Journal/download/EUIJKR-3and4-1-2014.pdf>

五月女 律子「冷戦終結後のフィンランドの安全保障防衛政策 PKO・国際的危機管理活動を中心に」『北九州市立大学法政論集』第42巻、第1号、2014年、1 - 26頁。

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

五月女 律子 (SAOTOME, Ritsuko)  
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授  
研究者番号： 50326526

(2) 研究分担者 ( )

研究者番号：

(3) 連携研究者 ( )

研究者番号：

(4) 研究協力者 ( )